

進路と社会をつなぐSDGs授業 ～グループワーク編～

まとめスライド

① グループワークを円滑に行うポイントの整理

〔1〕活動への導入

- ・導入で、本時の目的や背景を説明し、生徒への期待事項や具体的な活動内容をイメージさせる。

例) 具体的なエピソードをもとに、時代や社会が求める人材像の変化を説明
身近な例を出しながら、話の内容をリアルにイメージさせる

- ・本時の活動内容を明確に伝える。

①世界の問題について知ること ②どうすれば解決できるかを考えること

① グループワークを円滑に行うポイントの整理

〔2〕グループ分けの方法

- ・グループ分けから生徒を巻き込み、生徒主体の活動になるようキッカケを与える。
- ・グループ分けで着席したらすぐにコミュニケーションをとり、互いに話しやすい環境を事前につくるよう促す。

① グループワークを円滑に行うポイントの整理

〔3〕 グランドルールの設定 1

- ・ グループワークに対して抵抗感や苦手意識のある生徒でも安心して主体的に取り組んでもらえるようにするために設定する。

※グランドルールは不変ではなく、生徒の状況に合わせてアレンジを加える

① グループワークを円滑に行うポイントの整理

〔3〕 グランドルールの設定2

- ・ 何を言っても許されるので、何でも言うようにする。

(逆に何を言われても受け入れる)

- ・ 喋れないことをアウトだと思わない。

また喋れない自分をダメだと思ふ必要は無い。

- ・ チームの中でフェアを考え、フェアを守っていく。

※フェア＝安心安全の場

① グループワークを円滑に行うポイントの整理

[4] リーダー決め1

- ・話し合いはさせず、生徒の主体性によってリーダーを決める。

※話し合うと、生徒同士の忖度や遠慮が生じるため、

「やりたい」という素直な気持ちを表現しづらくなる場合があるため。

① グループワークを円滑に行うポイントの整理

[4] リーダー決め2

- ・ リーダーの仕事や役割について事前に情報は与えない

※仕事や役割によって、立候補するしないを判断するのではなく、
自分のやりたいという気持ちで立候補する生徒をリーダーにできるため

① グループワークを円滑に行うポイントの整理

〔5〕 自己紹介のルール

- ① 相手が話し終わったら拍手して一言伝える
- ② 1つ質問をする
- ③ 時間内に全員の自己紹介を終わらせる
- ④ 時間が余っても話し続けるようにする

(補足) 自己紹介の項目

- (1) 学部・学科の希望
- (2) 名前 (フルネーム)
- (3) 補足情報
- (4) 自分のマニアックな所

進路と社会をつなぐSDGs授業 ～進路指導・キャリア教育編1～

まとめスライド

② SDGsを知識のインプットだけで終わらせない指導例

〔 1 〕 SDGsへの理解を深め自分事として（当事者意識をもって） 課題を捉える

- ・ 映像教材を使い、SDGsへの関心喚起と理解を深める。
- ・ 映像の内容について追加説明を行い、生徒がより自分事として落とし込めるように解説をする。
- ・ SDGsについて振り返りながら、世界の問題ではなく、日本における現状にも言及し視野を広げさせる。
- ・ SDGsの課題を考えさせる上で大切な視点を与える。
（物事を広く見る必要があり、どれが正しいという話ではない）
- ・ SDGsの目標や記載事項を、徹底的に生徒たちの日常に落とし込み、その意味合いや状況を想起させる。



進路と社会をつなぐSDGs授業 ～進路指導・キャリア教育編2,3～

まとめスライド

③ 社会で求められる力や必要となる視点を伝える際のポイント

〔1〕 社会で求められる力を用語だけではなく、
背景やその必要性を含めて理解させる

- ・ 授業の目的を改めて振り返り、カードゲームと今後の進路や将来に向けた話と接続させる。
- ・ カードゲームでの体験とリンクさせ、SDGsの考えや社会で求められる資質「当事者意識」を身をもって理解させる。
- ・ 「当事者意識」を生徒の日常へ落とし込み説明をする。
例) 自分が落としたゴミでなくても拾うなど
- ・ 学んだことを、今後の進路や学校生活で活かせるように具体的なエピソードを交えて意識づけを行う。
- ・ 用語や考え方を理解させるため、ワーク（ケーススタディ等）を取り入れ、向き合う時間を設ける。

③ 社会で求められる力や必要となる視点を伝える際のポイント

〔1〕 社会で求められる力を用語だけではなく、
背景やその必要性を含めて理解させる

- ・ 実際に体験したワークと紐づけて、次の話題「納得解」につなげることで、関心の高まった状態で話を伝える。
- ・ （同じテーマで）ワークを重ねることで、重要な考え方への理解や定着、今後に向けた意識付けや活用への土台を作る。
- ・ ワークの内容や状況に応じて、補足説明や考え方の視点を与え、議論を活発化させる。
（より主体的に取り組めるように促していく）
- ・ 世界の国々がおかれているリアルな状況を伝えながら、日本にいる生徒自身が今後の進路踏まえ何ができるか、何をしたいかを考えさせ、新たな気づきを与える。

③ 社会で求められる力や必要となる視点を伝える際のポイント

〔2〕 人間だからこそできることは何か、という 視点をもたせ考えさせる

- ・ 具体例をもとに、人間とロボットそれぞれで、できることやできないことは何かを考えさせる。
例) 給与・コスト比較、メリットデメリット比較など
- ・ 納得解の考え方
→ 社会において多様な答え、価値観、状況がある中で、
各当事者が物事を前に進めるために必要な考え方。
(絶対的な正解ではなく、各人が納得するかはロボットには
出せない)